

『学会開催報告』

第14回アジア太平洋性機能学会

The 14th Biennial Meeting of Asia-Pacific Society for Sexual Medicine金沢大学医薬保健研究域医学系集学的治療学
(泌尿器科学)

高 栄 哲

2013年5月31日(金)~6月2日(日)にわたり、第14回アジア太平洋性機能学会(The 14th Biennial Meeting of the Asia-Pacific Society for Sexual Medicine, 14th APSSM)および日本性機能学会第24回学術総会、日本性機能学会第23回中部総会を金沢市の石川県立音楽堂およびANA Crowne Plaza Hotel金沢で開催いたしました。

近年、性機能研究は勃起障害(ED)のみならず糖尿病やメタボリック症候群などの生活習慣病や、男性更年期障害&LOH症候群、前立腺肥大症&LUTS等との関わりから、重要な学術分野として認識されています。今後もこれらの疾患の急激な増加が予想されており、これらの課題に取り組む性機能学会の果たす役割は世界的に大きくなりつつあります。

APSSMは国際性機能学会(ISSM)の支部の中では最も人口が多い地域をカバーしており、今回の14th APSSMには国内外から多数の著名な先生方を招待しました。

参加国はアメリカ合衆国、オランダ、インド、インドネシア、ウズベキスタン、オーストラリア、シンガポール、バングラデッシュ、スリランカ、タイ、ベトナム、モンゴル、マレーシア、ロシア、台湾、韓国、中国、香港などの欧米、アジア諸国から総勢200人近くが参加し、本邦からも約300人が参加する盛大な会となりました。

5月31日の開会式に続いて、国際性機能学会会長Chris G McMahon (Australia)とAPSSM会長TaiYoung Ahn (Korea)の会長講演を皮切りに、Welcome to APSSMセッションにロシア性機能アンドロロジー学会会長Dr P. Scheplev (Russia)、ウズベキスタンのDr Shavkat Shavakhobov、スリランカのDr Lasantha Malavige、バングラデッシュのDr Mohammad Shamsul Ahsam (Bangladesh)の各国の性機能の状況について講演がありました。

斯界の大家からMaster lectureとして、1、米国からTom F. Lue教授、2、シンガポールからGanesan P. Adaikan教授、3、米国からStephen W. J. Seager教授、の講演がありました。

性機能領域の今を知るPlenary lectureには、1)幹細胞について米国のRun Wang教授、2)陰茎血流についての話題を中国のShen Ming教授、3)低エネルギー衝撃波の臨床応用についてZongCheng Xin教授、4)高齢者のSexualityについてインドのSudhakar Krishnamurti教授、5)日本からは陰茎に対する手術の先端知識をKoichi Nagao教授、6)陰茎リハビリテーションについてオランダのY. Reisman教授など多彩でした。

12のシンポジウムは、1, Penile surgery 2, Cardiovascular Disease & CRF associated ED 3, DM/Metabolic syndrome

& Sexual medicine 4, Women's sexual dysfunction 5, Prostate cancer 6, Ejaculation 7, PDE5 inhibitors-Their effects on sexual function and more 8, Basic research 9, Androgen & Sexual function /male infertility 10, Alternative medicine & supplement for sexual dysfunction 11, Stem cell therapy 12, Men's Healthの分かれ、各シンポジウム著名な演者の講演と活発な討論と情報交換が行われ、会場からも積極的な質問が相次ぎました。

今学会のテーマは「Inspire a young generation in APSSM」とし、その意味するところは、性機能という観点から少子高齢化社会の問題点を、これからの若い世代に引き継ぎ、解決を期すことです。アジア太平洋地域の新進気鋭の若い研究者、臨床家に、研究成果をYoung scientist's lecture 1, 2のセッションで発表の機会を提供できました。日本、インドネシア、タイ、インド、モンゴ、中国、マレーシア、オーストラリア、シンガポールの選抜された演者から、きわめて質の高い研究成果の発表があり、当初企図した目的以上の成果が達成された印象です。

さて、ポスターセッションには、14カ国以上、125の演題の登録があり、優秀演題15題については、oral session1, 2, 3に選抜し、発表の機会を提供しました。また、ポスターセッションの質疑応答が活発に行われ、十分な情報交換が行われたと自負しています。

さらに、学会公式行事以外に金沢百万石まつりへの参加および音楽堂でのパイプオルガン演奏の鑑賞もあり、外国参加者から多くの賞賛を得ました。

最後に、本学会を成功させるために、企画の段階から性機能に関与する施設より多大なご支援を頂き、十全医学会をはじめ、金沢大学の多くの皆様からご援助をいただきましたことに感謝申し上げます。

